

おやつかん 御谷館 鎌倉そして三溪園

発表者：片山会員

かつて三溪園の海の近くに御谷館という建物がありました。鎌倉鶴岡八幡宮寺に併存していた僧坊を移築し海の家、休憩所、集会所など多角的ホールとして使われていたと伝えられています。三溪園への移築が明治38年頃で大正4年には失火で焼けてしまいました。

この建物の写真（絵葉書）を見ると、これが鶴岡八幡宮寺の御谷にあった僧坊には見えず、また明治の初めの神仏分離、廃仏毀釈で鶴岡八幡宮寺でもお寺関係の建物はすべて壊されたはずであることから、この御谷館を誰が、何時、何のために、どこに建てたものか、そしてなぜ三溪園に移築されたかを調べてみました。

明治時代に描かれた鎌倉絵図、そしてその他資料からのアプローチです。明治20年代の絵図5枚から御谷館が描かれたものが見つかり、その1枚の御谷館を拡大すると三溪園の絵葉書と同じ建物であること、そして場所が鎌倉小袋坂沿いの現神奈川県立近代美術館別館の斜め向かいあたりであることが確認できました。その他資料からはこの建物は明治23年頃鶴岡八幡宮初代宮司管崎博尹が建てたもので鎌倉懐古展覧会など展示場として使われものであり、御谷館と名付けたこともわかりました。明治26年この御谷館が建っている土地の所有権は宮司管崎博尹から原善三郎（原三溪養祖父）に移転され、御谷館はその場所で存続、その後、明治38年頃三溪園に移築されました。（片山）



古絵葉書「(横濱名所) 本牧三溪園」
(小島会員所蔵)

平成29（2017）年度総会を実施しました



- ・平成28年度事業報告及び会計報告、会計監査報告
- ・平成29年度事業計画及び予算案

いずれも案のとおり承認されました。2019年の原三溪生誕150周年に向け、三溪の漢詩や和歌を編集した『三溪集』や、三溪自作の詩書画をまとめた『三溪画集』の読解を長期目標として調査研究を進めていきます。